

■ 沢端川への鯉の放流事業の概要について

城下町「しろいし」の自慢のひとつが、まちの真ん中を流れる沢端川です。沢端川は、白石城の外堀として城を守るとともに、白石川から注ぎ込むきれいな清流は大切な宝です。

太平洋戦争により一度は荒れ果てたこの沢端川に、昔のような美しい清流を取り戻そうと市民の有志が川の清掃や周辺環境の整備を行い、その事業は現在も受け継がれています。

さらに、魚の泳ぎまわる川を目指して鯉の放流を行い、「美しい花が咲き乱れる中、清流を気持ちよく泳ぐ鯉の群れ」は、「城下町回遊ルート」として白石市が誇る観光資源となっています。

■ 沢端川への鯉の放流事業の経緯について

終戦後、市民の有志が「蔵王自然保護協会」を発足させ、汚水の放流やごみの投げ捨て防止を呼びかけるとともに、川の清掃や川の周りの緑化活動を行いました。

その活動が実を結び、昭和47年ころから、白石市のシンボルである沢端川にたくさんの鯉の群れを見ることができるようになりました。

昭和61年4月には、「蔵王自然保護協会」の会員が中心となり「沢端川の水と鯉を守る会」を設立し、春・秋の川干での清掃作業に伴う鯉の保護や周辺の緑化整備とあわせて、鯉の放流事業を行ってきましたが、会員の減少や高齢化から活動が休止状態となっていました。

このような中、平成18年度に白石城から商店街に至る回遊ルートとして沢端川にデッキ広場が整備されたことをきっかけに、平成21年5月に観光協会に鯉約130匹が寄付され、幼稚園児たちを招いて沢端川に放流をしています。

平成24年7月には、市民有志と行政が協力して「沢端川環境を守り鯉を育てる会」を設立し、市民の憩いの場、白石市の観光の拠点としての沢端川を後世に引き継ぎ守る活動を行っています。

■ 新聞記事・広報しろいし記事

昭和60年 5月 5日 河北新報記事

昭和62年 5月 5日 河北新報記事

昭和63年 5月 5日 河北新報記事

平成 5年 5月14日 河北新報記事

平成21年 7月 1日 広報しろいし7月号記事

見て遊んで気分浮き浮き

3連休
初日

5/4

ゴールデンウィークも後半の三連休がスタートした。三日の県内は時折、小雨がバラついたりもの、晴れ間も出て気温が上がりますが、ますますの天気。武者行列が出た白石市民まつりなど各地で春本番を告げる多彩な催しが繰り広げられたが、どこも連休を楽しまうという家族連れでにぎわい、仙台駅前やツクシテイ丸光仙台店で開催中の河北美術展はこれまで最高の入場者を記録した。仙台管区気象台によると、きょう四日の県内は「晴れ時々曇り」で、ところによりにわか雨、五日は「晴れ時々曇り」と、天気は何とか持ちこたえようだ。

武者練り歩く

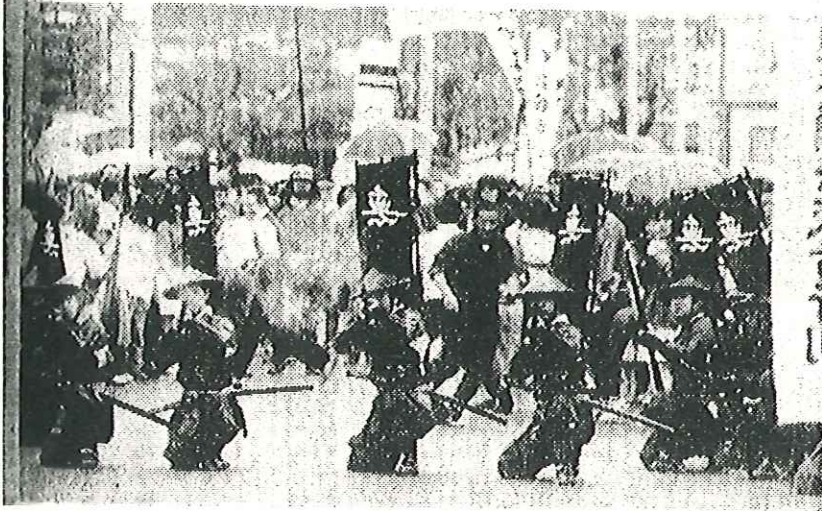
白石市民
春まつり

白石市では市民春まつりが開かれ、俳優西尾輝彦さんを白石城主片倉小十郎役に扮した武者行列が市中心部を練り歩くなど、市民参加の祭りは盛り上がった。

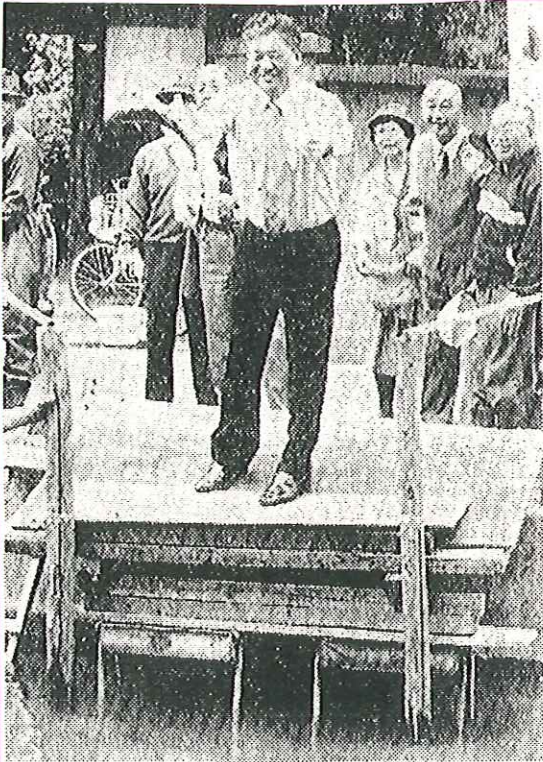
市中心部の車両通行をストップ、午前中いっぱい笛や太鼓に合わせパレードをした市民は約千三百人。町内会手作りの太鼓山車、子供会のみこしも練り出し、沿道の市民や観光客の拍手を浴びた。

午後からは、独眼竜政宗アームに乗って今回初めての片倉小十郎甲冑(かっちゅう)

武者行列。NHK大河ドラマの片倉小十郎役西尾輝彦さんに主演役になってもらい、政宗役は川井市民、二人は馬に乗ってパレードする予定だったが、白鳥一小での出陣式で大勢の市民に驚いた馬が川井市長を振り落とすハプニングがあり、大騒ぎとなり騎乗は取りやめに。しかし、五十人の武者が堂々と歩き、途中で火縄銃を撃つたりする戦国ドラマをほうふつさせる行列に見物の人たちは大喜びだった。



昭和60年 5月5日 河改



一匹ずつ放流されるニシキゴイ

清流に躍るコイ

白濁の 200匹を放流

みやぎ新観光名所百選にも入った清流の都白石のシンボル沢淵川で三日、恒例のニシキゴイ放流が行われた。

「沢淵川の水とコイを守る会」(松野金夫会長)が毎年今の時期に行っている行事で、放流場所の白石市民会館前には楽しみにしている市民十数人が見物に。同市の川井市長、高橋助役らも顔を見せ、体長五、六十匹もあるニシキゴイ約二百匹を一匹ずつ、滑らかな流れにの祈りを込め放流した。

5/4 初日に四万五千人

白石で全日本こけしコンクール開く

【白石】こけしの祭典。全日本こけしコンクールが三日、白石市の市民会館で開幕し、初日から約四万五千人のこけしファンでにぎわった。

同コンクールは今回が二十七日目。伝統、新型、創作こけしなど合わせて千二百点を超える作品が出品され、最優秀作品の内閣総理大臣賞を女学生二人が初受賞するなどの話題をまいた。開幕の午前九時から会場の周囲には長い列。式典の後、一番乗りの人気が目立った。同コンクールは、全日本ゆめまつりと同時開催で七日まで。即売コーナーもお目当ての工人の作品を求める人でごった返した。



夫さんまに記念のこけしが、また、先着百人にうめんや木地がん具がプレゼントされた。

開幕と同時に、マニアたちはお目当ての作品を手に入れようと会場内へ。コンクール出品の有名工人らの作品には次々に予約の札が張られ、会場内は熱気が漂った。また、三万五千本近いこけしを用意した即売コーナーもなかなかの人気で、大きな買い物かごに五本、十本とまとめ買いするファンが目立った。同コンクールは、全日本ゆめまつりと同時開催で七日まで。即売コーナーもお目当ての工人の作品を求める人でごった返した。

昭和60年5月5日 河北

5/5 「市民と仲良くね」ニシキゴイを放流

白石市調練場の市民会館前
白石・沢端川



川は十年ほど前からゴイの泳ぎ回る川として知られており、「沢端川の鯉を守る会」の人たちが中心になって世話をしている。この日は、守る会や白石みどりの少年団のボランティアの子供たち約二十人に、同市の小室議長、高橋助役らも加わってニシキゴイやヒゴイを次々と放流した。こ

らニシキゴイなどが寄せられた。

5/3 元気な稚アユ三万匹 白石川に放流

白石川漁協組（十二村盛英組合長）は十一日、白石市福岡深谷の白石川と畜川合流点など二カ所で、稚アユ三万匹を放流した。

放流された稚アユは中新田養魚生産組合産で、体長十センチほど。七月一日のアユ解禁まで、今の倍の十八二十センチ程度の成魚に育つという。

東北高速道を通って大型トラックで運ばれて来た稚アユは至って元気だ。パケツやホースなどを使って水槽から放された。

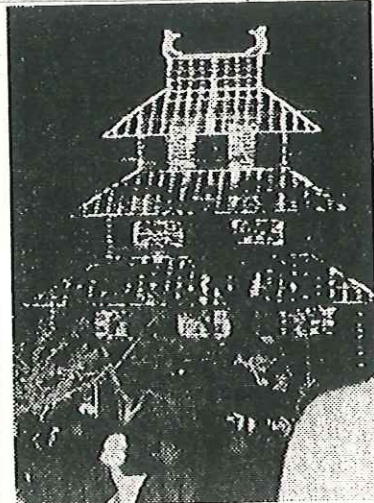
5/8 売り上げ激減 嘆きのこけし

○：「好天に恵まれずきたのが、裏目に出してしまった」。こうぼやくのは、七日幕を閉じた全日本こけしコンクールで事務局を担当した白石市の黒沢商工観光課長。

事務局の集計によると、三日から七日までの期間中の入場者は十一万一千四百五十人で、昨年を五千人以上も下回った。即売品の売り上げもきつと千六百万円と、昨年比べて三百万円も落ち込んだ。

最近にない大型連休に十万人の入場者を見込んでいただけに、同課長も期待を裏切られカッカリ。その上、このところ好調だった売上高もダウンし「入場者の財布のヒモは予想以上に固かったようです」と、分析の声も湿りがち。

5/3 夜空に光の白石城



豆電球
点灯

白石市民春まつりの前夜祭が二日夜、白石城跡の益岡公園で行われ、四万二千の豆電球による光の白石城が夜空にくっきり浮かび上がって、写真、詰め掛けた大勢の市民

春まつり前夜祭

を喜ばせた。

光の白石城は、この城で奥羽列藩同盟会議が持たれた戊辰の役から、今年がちょうど百二十年に当たることや、城を復元する市の動きがあるのに合わせ、郷土の歴史を思い

起こそうとの願いを込めて作られた。幅十尺、高さ十三尺のパイプの骨組みに、仙台光のベージュで使われた豆電球を市の人口分だけ付け

すっかり暗くなった午後七時半。同まつり協議会小林新助会長、川井市長らが、出陣の太鼓の音に合わせ、点灯ボタンのスイッチを押すと、城が見事に輝いた。会場では山中七ヶ宿太鼓、謡なども披露され、訪れた人の目だけでなく、耳をも楽しませていた。光の城は五日夜まで輝く。

5/2 全日本こけしコンクール

扇千景さんら審査

白石

【白石】三日から白石市民会館で開かれる「こけしの祭典」第三十回全日本こけしコンクールを前に、一日、会場

で全国のこけし工人が出品した作品の審査が行われた。コンクールは伝統、新型、創作、木地玩具(かんぐ、ろ

の審査員が慎重に行い、二次の審査を経て、最高賞の内閣総理大臣賞、河北新報社賞など八十の入賞作を決めた。結果は二日、発表される。

創作、木地玩具(かんぐ、ろくろ応用の五部門に分かれており、今回審査の対象になったのは計千十三点。いずれもコンクールに合わせて、丹精込めて製作されたものばかり

力作に、扇千景さんら審査員の目が光る

5/5 子連れれの3組が合同結婚式

白石

白石市越河のレストランで先日、男性が同じ会社に勤める子供連れの夫婦三組の合同結婚式があり、出席した同僚らの祝福を受けた。

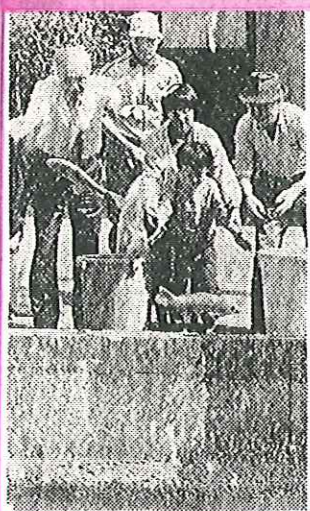
同市大鷹浜、管工事業エコー設備(高橋良夫社長、従業員七十人)の若手社員夫妻、いずれも「愛があれば、式なんて」と、式は挙げずにいたが、「やはり区切りは付けておいた方がよい。両親の結婚式の晴れ姿の写真は、子供が喜ぶ」という高橋社長の勧めで、台同の式に踏み切った。

5/5 早く大きくなって

白石 沢端川 ニシキゴイ50匹放流

河北新報創刊九十周年を記念したみやぎ新観光名所百選にも入った白石市の沢端川で三日、恒例のニシキゴイの放流が行われた。写真。コイが泳ぎ、清流の都白石のシンボルになっている同川を、より多くのコイでいっぱい

いにしよう、と「沢端川の水とコイを守る会」(松野金夫会長)が毎年、この時期に行っている。放流場所の市民会館前には、風物詩として楽しみにしている市民、こけしコンクールに訪れた観光客らが見物に。



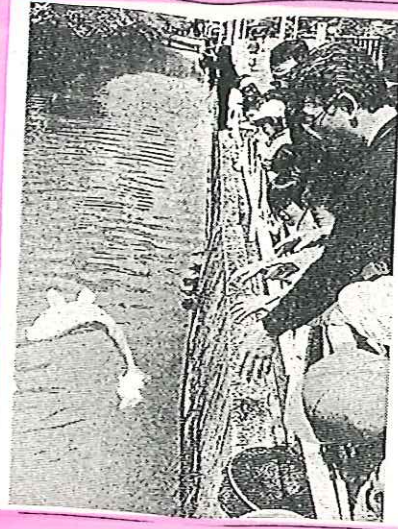
鈴木五朔同市教育長も顔を見せ、子供たちと一緒に体長四、五十センチのニシキゴイ五十匹を二匹ずつ、大きく「て」の折りを込め、清流に放してやった。

昭和63年5月5日河北

5/14
コト

園児らコイ100匹放流

白石 元気に泳ぐ姿に歓声



白石益岡ライオンスクラ
ブ(佐竹利会長)は十二日、
保育園児と一緒に、白石市
の沢端川にコイを放流する
奉仕活動に励んだ。写真
。

園児はひちひちはねるコ
イに驚きながらも、川の中
で元気に泳ぎ回る姿を見て
大喜び。「沢端川の鯉と水
を守る会」のボランティア
も駆け付け、ライオンスク
ラブの会員とともに「コイ
がすむ清流をいつまでも
美しく守ろう」と誓い合っ
た。

平成5年5月14日

5/14
コト

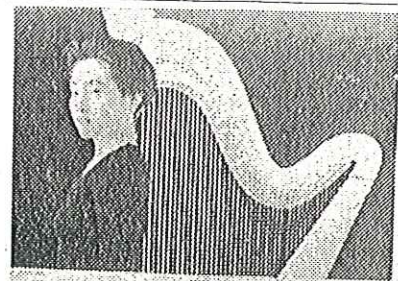
白石市でハープリサイタル

22日 吉野直子さん、9曲披露

白石市南町二丁目にある
古典芸能伝承の館・碧水園
で二十二日、世界的なハー
プ奏者・吉野直子さんのリ
サイタルが開かれる。碧水
園の能舞台はこれまで、能

や狂言など日本の伝統的な
芸能のために使われること
が多かったが、市民の間に
は疑問の声も少なくないこ
とから、古典芸能以外の催
しの能舞台はこれまで、能
しも積極的に開くことにし
たという。

碧水園が完成したのは一
昨年四月。同年五月十八日
のこけら落とし以来、喜多
流の能楽や和泉流の狂言、
お茶会などに使われ、九二
年度は約一万二千五百人が
訪れた。ところが、これま
で西洋の音楽の演奏会に使
われたのは、碧水園が第四
回全国生涯学習フェステイ
バルの白石会場となった、
昨年十月三十一日のチェン
バロの演奏会一回だけ。
市民の中には「碧水園は、



吉野直子 リサイタル

特別の芸能だけに使われて
いる。本当に、市民にとっ
て必要な施設かどうか疑問
だ」という声も出ていた。
ハープの演奏会は、市民
のこうした批判にこたえる
形で、白石市伝統芸能振興
会(浜田徳兵衛会長)と碧
水園が主催する。碧水園で
は今後も、音楽合奏による
名曲コンサートなどを計画
しており、「伝統芸能だけ
でなく、洋楽などバラエテ
ィーに富んだ演奏会を多く
の市民に楽しんでもらいた
い」と話している。

ハープの演奏会は午後二
時開演で、吉野さんがバッ
ハの「フーガ」や「プレ
ー」など九曲を披露する。

入場料は三千
円。問い合わせは白石市地
域振興課(電
話〇二四一
二五二二一
一、内線三〇
一、三〇二)
へ。

「吉野直子
ハープリサ
イタル」の
PRポスタ
ー

日/平成5年5月22日
会場/白石市南町二丁目 碧水園

きれいなコイが泳ぐ沢端川に！ 沢端川「コイの放流式」

市民や観光客の皆さんに、沢端川を泳ぐコイを楽しんでもらいたいと、ヒゴイやニシキゴイなど130匹（約15万円相当）を白石ライオンズクラブ（風間文静会長）が白石市観光協会（佐藤善一会長）に寄付しました。

5月15日、沢端川「ふれいデッキ」で行われた「コイの放流式」では、式典に続いてひかり幼稚園年長組の園児86人が2人1組になって、次々にコイを放流しました。沢端川には、現在約110匹のコイが生息しており、新しい仲間と一緒に透き通った川面を彩ってくれることでしょう。



▲コイを放流するひかり幼稚園の園児たち

心のこもった手づくりの品が勢ぞろい！ 第5回手づくりの市



▲手づくりの品が所狭しと並べられた会場

5月30・31日の両日、壽丸屋敷で第5回手づくりの市が開催されました。

手づくりの市は、市中心部の空き店舗を利用してにぎわいをつくりだそうと平成18年から開催しています。

第3回からは会場を壽丸屋敷に移して、サークルや講座で制作した作品を発表する場としてだけでなく、観光客の皆さんとの交流ができる場にもなっています。

初日の30日は、たくさんの皆さんが会場を訪れ、手づくりの品を手にとっては作り方を熱心に聞くなど、会場は1日中にぎわっていました。

今年は楽しくラクラク清掃！ プールがピカピカ！ 市内5つの小学校でEM菌を使ったプール清掃



▲会員の皆さん10人とともに清掃を行う児童たち

EM菌（有用微生物群）を使って環境に優しいプール清掃を行おうと、今年3月に市民有志で発足した環境浄化EM菌の会（佐藤常世会長）が市内の小学校に呼び掛け、5つの小学校でEM菌発酵液の投入を実施しました。

白石第一小学校（佐藤茂廣校長）では、4月中旬に各児童が家庭でEM菌発酵液を作り、4月28日に約350ℓを投入しました。5月27日、6月1日のプール開きを前に5・6年生173人が清掃を実施。昨年までのような緑色の藻は消え、児童たちは「今年の掃除はラクラク！」と、笑顔で清掃を行っていました。

泥にまみれて農業体験！ 田舎暮らし体験ツアー春編

5月16日・17日の2日間、田舎暮らし体験ツアーの春編が開催され、東京都や仙台市から5家族17人の皆さんが参加しました。「水と緑のまち白石をもっと知ってほしい」という思いで始まったこのツアーも今年で4回目。田植えや里芋の植え付け、タケノコ掘りなどの体験を通じて、都会にはない豊かな自然がはぐくんだ白石の魅力を満喫しました。東京都から参加した青山さん一家は、「どうしても田植え体験がしたくて応募しました」と、泥だらけの姿で話してくれました。10月には秋編が開催され、稲刈り体験や里芋の収穫体験が行われます。



▲参加者の皆さんで記念撮影

5/21

5.15

放流

5/21

5.15

読売



5/16 読
コイ多き川に
願い込め放流
白石市の幼稚園児約80人

が15日、市中心部を流れる沢端川に、ニシキゴイやヒゴイなど計130匹を放流した。写真。同川には現在、約110匹のコイが生息しているが、水質悪化などにより減っている。コイは、白石ライオンズクラブ（風間文静会長）が山形県の養鯉場から15万円で購入。孵化して約2年、体長は20センチ前後だが、鮮やかな色彩は「大物」顔負け。幼稚園児らは、バケツで2〜3匹ずつ放流し、「元気でね」と手を振っていた。

古川 名物 パパ好み
0229-22-06156

毎月

5/16 毎
幼稚園児たちが
コイ130匹を放流
白石・沢端川



幼稚園児たちがニシキゴイなどコイ約130匹を放流した。写真。コイは、城主・片倉小十郎の出生地といわれる山形県長井市の養鯉場から取り寄せたもので、白石ライオンズ

クラブ（風間文静会長）が市観光協会に寄贈した。放流式では、園児たちが体長20〜30センチほどに成長したニシキゴイとヒゴイ約130匹を優しく放流した。風間会長は「沢端川は市の顔でもあるが、コイは年々減少している。少しずつ増やし観光客に楽しんでもらいたい」と話した。
【豊田英夫】

河北

コイ泳ぐ清流守ろう

白石 沢端川に園児ら放流

白石市を流れる沢端川に十五日、ニシキゴイとヒゴイ計百三十四匹が放流された。写真。放流は



十数年ぶり。沢端川は白石城の掘割として整備され、コイが泳ぐ清流で知られる。

「ふれあい（あい）デッキ」で行われ、コイを寄付した白石ライオンズクラブの風間文静会長が「市の顔でもある清流を維持したい」とあいさつした。コイは体長二〇―三〇センチと小ぶり。クラブが、白石城主の片倉小十郎の出生地とされる長井市の養魚場から十五万円で購入した。放流式には近くの「ひかり幼稚園」の園児八十六人が参加。デッキから川面に渡したスロープを通して、小さなバケツに入ったコイを放した。沢端川を管理している白石市によると、コイは十年以上前は三百匹以上いたが、近年は百十匹前後に減少している。

朝日

白石・沢端川にニシキゴイ放流

白石市の白石ライオンズクラブ（風間文静会長）が市観光協会にニシキゴイとヒゴイ計130匹を贈り、このほど園児らが中心街を流れる沢端川に放流した。写真。沢端川は白石城の外堀などを流れ、コイは現在約110



匹いるが年々減っているという。放流は十数年ぶりで観光振興と環境美化が目的。コイは白石城主の初代・片倉小十郎景綱の生まれ故郷である山形県長井市から取り寄せた。放流式には近くの幼稚園児も参加、「元気でね」と声を掛けた。風間会長は「沢端川は市の顔とも言える清流。コイの泳ぐ姿を観光客も市民も楽しんでほしい」と話した。